

引用文献

- 青山征彦[著]/ 青山征彦, 香川秀太[編] (2015). 越境する対話と学び 異質な人・組織・コミュニティをつなぐ、「第1章 越境と活動理論のことはじめ」. 東京: 新曜社,19-34.
- Benner, P. (1984)/ 井部俊子監訳 (2005). ベナー看護論 新訳版 初心者から達人へ. 東京: 医学書院.
- Benner, P., Tanner, C., & Chesla, C. (2009) / 早野 ZITO 真佐子訳 (2015). ベナー看護実践における専門性、達人になるための思考と行動. 東京: 医学書院.
- Benner, P., Sutphen, M., Leonard, V. & Day, L. (2010) / 早野 ZITO 真佐子訳 (2011). ベナー ナースを育てる. 東京: 医学書院.
- Billings, M. D. & Halstead, A. J. (2012) / 奥宮暁子, 小林美子, 佐々木順子 (2014). 看護を教授すること 大学教員のためのガイドブック. 東京: 医歯薬出版株式会社.
- Chenitz, W.C., Swanson, J.M. (1986) / 樋口康子, 稲岡文昭監訳 (1992). グラウンデッド・セオリー: 看護の質的研究のために. 東京: 医学書院.
- Dreyfus, H. & Dreyfus, S. (1986) / 椋田直子訳 (1987). 純粹人工知能批判 - コンピュータは思考を獲得できるか -. 東京: アスキー.
- Dickson, C., Walker, J. & Bourgeois, S. (2006). Facilitating undergraduate nurses clinical practicum: the lived experience of clinical facilitators. *Nurse Education Today*. 26 (5), 416-422.
- 藤内美保, 宮脇由紀子 (2005). 看護師の臨床判断に関する文献的研究 - 臨床判断の要素および熟練度の特徴 -. *日本職業・災害医学会会誌*.53 (4) , 213-219.
- 舟島なをみ (2001). 基礎看護学研究の成果に見る看護学実習の現状と課題. *Quality Nursing*. 7 (3), 6-15.
- Gillespie, M. (2002). Student - teacher connection in clinical nursing education. *Journal of Advanced Nursing*. 37 (6), 566-576.
- 萩あや子, 肥後すみ子, 奥山真由美, 村上生美 (2007). 岡山県立大学保健福祉学部紀要. 14 (1), 29-39.
- Hagan, G., Sørensen, A. H. & Hanssen, I. (2012). The importance of dialogue in student nurses' clinical education. *Nurse Education Today*. 32 (4), 438-442.
- 平野加代子 (2010). 臨地実習指導場面における看護教員のコンピテンシー. *日本看護学教育学会誌*. 20 (1), 25-35.

- 廣田登志子, 舟島なをみ, 杉森みど里 (2001). 実習目標達成に向けた教員の行動に関する研究 - 看護学実習における学生との相互行為場面に焦点を当てて -. *看護教育学研究*. 10 (1), 1-14.
- 細谷俊夫, 奥田真丈, 河野重男, 今野喜清 (1990). *新教育学大事典_第 1 卷*. 東京: 第一法規出版株式会社.
- 井村香積, 高田直子, 新井龍, 坂口桃子 (2009). 学生が体験した患者との関わりにおける困難と困難からの学び取り - 基礎看護学実習 II を通して -. *滋賀医科大学看護学ジャーナル*. 7 (1), 27-30.
- 井上京子, 山田 香, 南雲美代子, 寺島美紀子, 遠藤恵子, 沼澤さとみ, 青木実枝, 竹原 敦, 神先秀人, 前田邦彦 (2012). 当大学看護学科における模擬患者参加型授業の実際. *山形保健医療研究*. 15, 33-43.
- 石川須美子 (2014). 看護学生のコミュニケーション教育における心理劇的ロールプレイ導入の効果. *別府大学紀要*. 55, 85-95.
- 石綿啓子 (2006). 基礎看護技術演習に教師が役割演技をした場合の学習効果. *高崎健康福祉大学紀要*. 5, 73-82.
- Jarvis, P. (1987). *Adult learning in the Social Context*. Routledge. London.
- 加悦美恵, 飯野矢住代, 河合千恵子 (2006). 基礎看護学における SP 参加型の授業と臨地実習の連繫 - 学生の臨地実習の体験のふりかえりから -. *日本看護科学学会誌*. 26 (2), 67-75.
- 香川秀太 (2008). 「複数の文脈を横断する学習」への活動理論的アプローチ - 学習転移論から文脈横断論への変移と差異. *心理学評論*, 51 (4), 463-484.
- 香川秀太 (2012). 看護学生の越境と葛藤に伴う教科書の「第三の意味」の発達・校内学習・臨地実習間の緊張関係への状況論的アプローチ. *教育心理学研究*. 60, 167-185.
- 香川秀太[著]/ 青山征彦, 香川秀太[編] (2015). 越境する対話と学び 異質な人・組織・コミュニティをつなぐ、「第 2 章 『越境的な対話と学び』とは何か - プロセス, 実践方法, 理論」. 東京: 新曜社, 35-64.
- 金子さゆり, 樫野香苗 (2015). 基礎看護学実習における学生のストレス因子構造と対処行動. *名古屋市立大学看護学部紀要*. 14, 51-59.
- 川口孝泰 (2013). 基礎看護学は誰が何を教授するのか? 特集 基礎看護学を再編成する・1 看護の「基礎」とは何か? . *看護教育*. 54 (1), 12-17.

- 川本利恵子[著]/日本看護協会[編] (2015). 平成 27 年度版 看護白書、1 章 看護基礎教育/研修について、1-1 解説:少子超高齢社会で望まれる人材と教育のあり方、文科省の GP 事業等で期待される能力強化. 東京: 日本看護協会出版会.
- 川島みどり[著], 川島みどり[監修] (2003). 実践看護技術学習支援テキスト 基礎看護学, 第 1 章 基礎看護技術概論, II 基礎看護技術論, 3. 看護業務と看護技術. 東京: 日本看護協会出版会. 東京, pp23-24.
- 河部房子 (2015). 自己の看護体験を評価する学習過程における看護学生の自己教育の様相. *日本看護学教育学会誌*. 25 (1), 1-13.
- 萱間真美[著]/見藤隆子, 小玉香津子, 菱沼典子[編] (2011). 「日常生活行動援助」の項. 看護学事典 第 2 版. 東京: 日本看護協会出版会.
- 厚生労働省 (2003). 「臨地実習において看護学生が行う基本的な看護技術の水準」, 看護基礎教育における技術教育のあり方に関する検討会報告書. <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2003/03/s0317-4.html>. (閲覧日: 2017 年 1 月 13 日).
- 松田安弘, 中山登志子, 舟島なをみ, 横山京子, 鈴木恵子, 本郷久美子, 小川妙子 (2005). 看護学実習の目標達成に必要な不可欠な教授活動の解明 - 質的研究 3 件のメタ統合を通して -. *看護教育学研究*. 14 (1), 51-64.
- 松木光子[監修]/宮地 緑[編著] (2010). 看護学臨地実習ハンドブック - 基本的考え方とすすめ方 -, 第 3 章 専門分野 I 基礎看護学. 京都: 金芳堂.
- 松谷美和子, 三浦友理子, 奥裕美 (2015). 看護過程と「臨床判断モデル」. *看護教育*. 56 (7), 616-622.
- Merriam, S.B. & Caffarella, R.S (1991). *Learning in Adulthood: A Comprehensive Guide (Second Edition)*/立田慶裕, 三輪健二[監訳] (2005). 成人期の学習 - 理論と実践 -. 東京: 鳳書房.
- 溝上慎一[著]/富田英司, 田島充士[編] (2014). 大学教育 - 越境の説明をはぐくむ心理学、14 章 自己 - 他者の構図から見た越境の説明: 社会的な他者性を統合して発展する. 京都: ナカニシヤ出版.
- 文部科学省 (2011). 「学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標」(資料). http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/47/siryo/icsFiles/afiefieldfile/2011/11/04/1312488_5.pdf. (閲覧日: 2017 年 1 月 15 日).

- 中本明世, 伊藤朗子, 山本純子, 松田藤子, 門 千歳, 横溝志乃(2015). 臨地実習における学生の困難感の特徴と実習状況による困難感の比較 基礎看護学実習と成人看護学実習の比較を通して. *千里金蘭大学紀要*. 12, 123-134.
- 日本看護科学学会看護学学術用語検討委員会(2011). 看護学を構成する重要な用語集「日常生活行動」の項. 日本看護科学学会第4期学術用語検討委員会.
- 日本子ども家庭総合研究所[編](2015). 日本子ども資料年鑑、心も体も伸びゆく小・中学生期, 思春期における実態と環境、若者の自立とその支援. KTC中央出版. 東京.
- 小川妙子, 舟島なをみ (1998). 看護学実習における教員の教授活動—学生と患者との相互行為場面における教員行動に焦点を当てて—. *千葉看護学会会誌*. 4 (1), 54-60.
- 奥田玲子, 深田美香, 青戸春香, 栗野由記子 (2016). 生活援助論演習での経験型学習を通じた学生の学びの分析. *鳥取大学教育研究論集*. 6, 27-36.
- 奥井良子, 白水真理子, 間瀬由記 (2014). 看護学生の臨地実習におけるレジリエンスの変化と困難および支えの関連. *日本看護学教育学会誌*. 24 (1), 67-77.
- 大橋久美子 (2008). 一般病棟における患者の「入院生活」: 概念分析. *聖路加看護学会誌*. 12 (2), 14-24.
- 大橋久美子, 菱沼典子, 佐居由美, 大久保暢子, 石本亜希子, 佐竹澄子 (2008). 看護大学入学生の生活体験. *聖路加看護学会誌*. 12 (2), 25-32.
- 大澤妙子, 富澤美幸 (2009). 対話的リフレクションを用いた実習指導法の検討. 日本看護学会論文集. *看護教育*. 40, 164-166.
- 佐伯胖[監修] (2010). 「学び」の認知科学事典. *大修館書店*. 東京.
- 佐居由美 (2013). 基礎看護技術以外の「基礎看護」とは? 特集 基礎看護学を再編成する・1 看護の「基礎」とは何か? . *看護教育*. 54 (1), 18-24.
- 佐居由美, 石本亜希子, 伊藤美奈子, 大橋久美子, 大久保暢子, 佐竹澄子, 蜂ヶ崎令子, 菱沼典子(2011). 看護学導入期の学生の困難性に対応した Web 教材の開発. *聖路加看護学会誌*. 15 (1), 17-26.
- Sanders, D., Welk, D. S. (2005). Strategies to Scaffold Student Learning Applying Vygotsky's Zone of Proximal Development. *NURSE EDUCATOR*. 30 (5), 203-207.
- 佐藤雄大 (2006). 第二言語学習における「最近接発達領域」. *ヴィゴツキー学*. 7, 19-26.
- 柴田義松 (2006). ヴィゴツキー入門. 東京: 子どもの未来社.
- 新村 出 [編] (2008). 「がい - ねん 概念」の項. *広辞苑* 第6版. 岩波書店: 東京.

- 新村 出 [編] (2008). 「ほう - りゃく 方略」の項. 広辞苑 第6版. 岩波書店: 東京.
- Sun, F.K., Long, A., Tseng, T.S., Huang, H.M., You, J.H., Chiang, C.Y. (2016). Undergraduate student nurses' lived experiences of anxiety during their first clinical practicum: A phenomenological study. *Nursing Education Today*. 37, 21-26.
- 高木光太郎[著]/波多野誼余夫[編] (1996). 認知心理学 5 学習と発達、第2章 実践の認知的所産. 東京: 東京大学出版会.
- 高橋由美子, 大見サキエ, 宮城島恭子 (2012). 学生が子どもの立場に立った看護が実践できるようになるプロセス. *日本看護科学会誌*. 32 (3), 35-44.
- 竹内貴子, 中島佳緒里, 前田節子, 服部美穂, 林 美希, 南 祐子 (2014). 看護実践能力を育てるための日常生活援助技術演習の展開. *日本赤十字豊田看護大学紀要*. 9 (1), 63-70.
- 田村房子(2000). 臨地実習における看護学生の看護者としての認識への発展過程の構造. *千葉看護学会会誌*. 6 (2), 47-53.
- 谷田貝公昭[著], 橋口英俊[編](1992). 新・児童心理学講座第3巻、身体と運動機能の発達、第三章 姿勢と運動の発達、「三 基本的生活習慣の発達」の項. 東京: 金子書房.
- ヴィゴツキー[著] (1926) /柴田義松, 宮坂琇子[訳] (2005). ヴィゴツキー 教育心理学講義. 東京: 新読書者.
- ヴィゴツキー[著], 柴田義松, 森岡修一[訳] (1987). 子どもの知的発達と教授. 東京: 明治図書出版.
- 和賀徳子, 高口みさき, 島田千恵子 (2010). 看護学教育の初回臨地実習における学生の学びの構造—初回臨地実習の質的研究のメタ統合を通して—. *日本看護学教育学会誌*. 20 (1), 37-47.
- 和住淑子, 山本利枝, 青木好美, 河部房子, 高橋幸子 (2004). 模擬患者への看護体験による看護学生の認識の発展. *千葉大学看護学部紀要*. 26, 63-67.
- Wiedenbach, E (1964). *Clinical Nursing - A Helping Art -* /外口玉子, 池田明子[訳] (1969). 臨床看護の本質 - 患者援助の技術 -. 東京: 現代社.
- Wood, D., Bruner, J.S. & Ross, G. (1976). the role of tutoring in problem solving. *The Journal of Child Psychology and Psychiatry*. 17, 89-100.
- 屋宜譜美子 (2016). 教員や学生が「患者役」になる意義をあらためて考える. *看護教育*. 57 (11), 870-875.

山田美幸・津田紀子・前田ひとみ (2013). 看護学生が臨地実習におけるケアリング体験の意味を構築する過程. *日本看護学教育学会誌*. 22 (3), 1-12.

安ヶ平伸枝, 菱沼典子, 大久保暢子, 佐居由美, 佐竹澄子, 伊東美奈子, 石本亜希子. (2010). 基礎看護学担当教員の捉える学生の特徴と教授学習方法の工夫. *聖路加看護学会誌*. 14 (2), 46-53.

湯澤正通 (2011). 科学的概念への変化 - 概念変化の要因と研究の課題 -. *心理学評論*. 54 (3), 206-217.